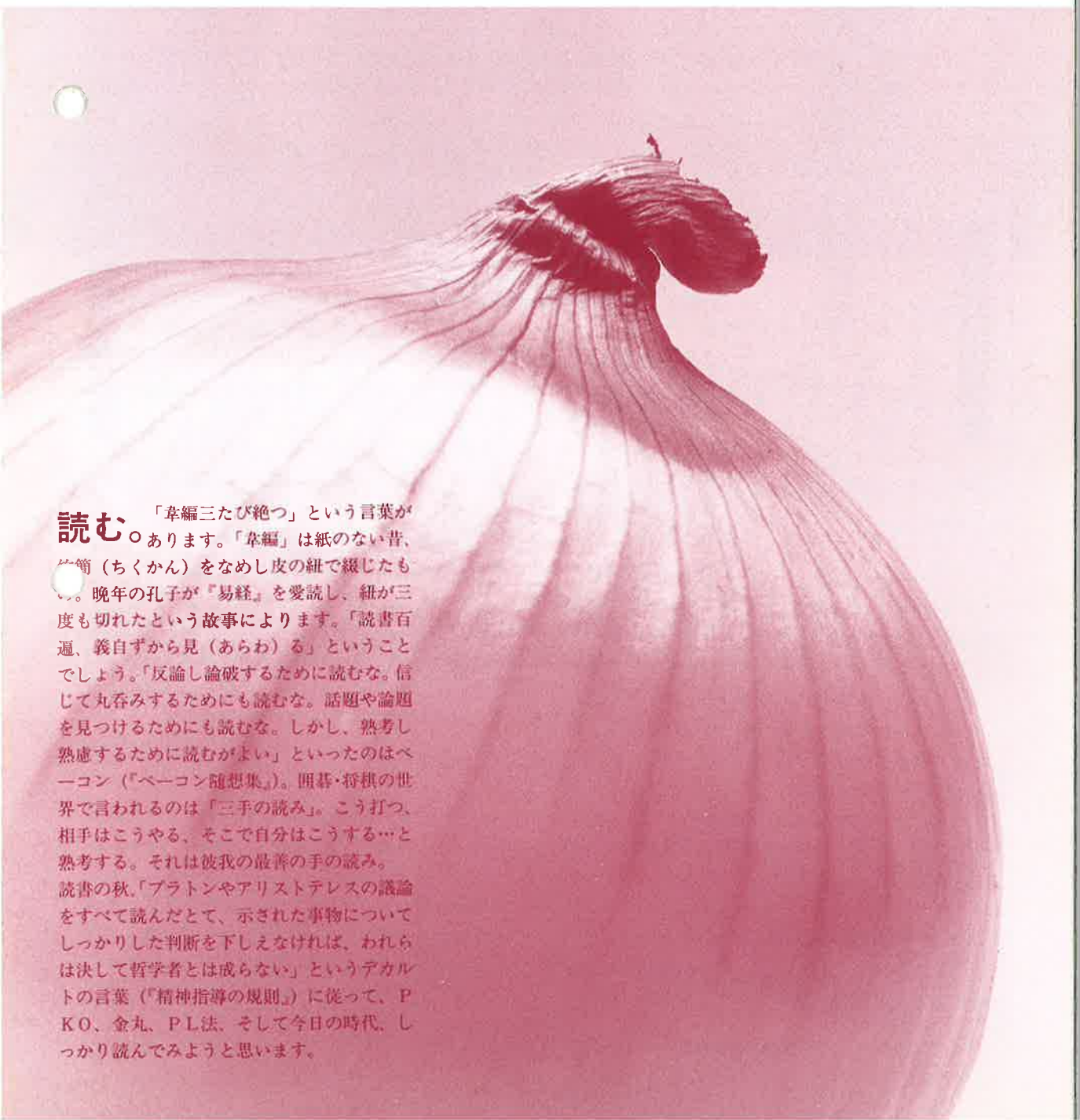
京都の生協

No.25

- ひとときトーク――高安マリ子さん
- カメラルポ――平和ミュージアム
- 連載最終回――あなたも地球協同組合人
- ブラジル会議レポート

発行/京都府生活協同組合連合会　October●1992

〒604 京都市中京区烏丸二条角 西和ビル6F
TEL. 075-251-1551 FAX. 075-251-1555



読む

「韋編三たび絶つ」という言葉があります。「韋編」は紙のない昔、竹簡（ちくかん）をなめし皮の紐で綴じたもの。晩年の孔子が『易経』を愛読し、紐が三度も切れたという故事によります。「読書百遍、義自ずから見（あらわ）る」ということでしょう。「反論し論破するために読むな。信じて丸呑みするためにも読むな。話題や論題を見つけるためにも読むな。しかし、熟考し熟慮するために読むがよい」といったのはベーコン（『ベーコン随想集』）。囲碁・将棋の世界で言われるのは「三手の読み」。こう打つ、相手はこうやる、そこで自分はこうする…と熟考する。それは彼我の最善の手の読み。
読書の秋。「プラトンやアリストテレスの議論をすべて読んだとて、示された事物についてしっかりした判断を下しえなければ、われらは決して哲学者とは成らない」というデカルトの言葉（『精神指導の規則』）に従って、PKO、金丸、PL法、そして今日の時代、しっかり読んでみようと思います。

随　想

ものと人間

京都大学生活協同組合理事長
佐野哲郎

幼い子を連れてアメリカに１年留学した知人が言っていました。その子が最初に覚えた英語は、“It's mine”（僕のだ）だったと。こういう話を聞くと、いかにも所有欲というのは人間の本能のように思えますが、たぶんそうではなく、所有を美徳とする時代と環境がそうさせるのでしょう。エーリッヒ・フロムが言っていますが、元来、ものとは人間にとって、所有の対象ではなく、一つの働きであったのです。そのことは言葉にも表われていて、「私は持っている」という言い方がなく、「それは私にある」としか言えない言語が多い、いや、その方が一般的なのだそうです。つまり、ものを所有しているのではなくて、たまたまものが自分のところにあるだけのことなのです。それは自分にとって必要だからあるので、必要がなくなれば、また誰かのところへ行くのです。一つの言語の発達過程でも、「持つ」という表現はあとから生まれてくるようです。そういえば、日本語でも、「僕は財産を持っている」というほかに、「僕には財産がある」という言い方が、昔からあります。「会議を開く」の代わりに、「会議を持つ」と言い出したのは、決して古いことではありません。

ものはもとより大切です。ものがなければ人間は生きていくことはできません。しかし、ものもお金と同じように、「天下の回りもの」と考えれば、どんなに気が楽になることでしょう。少なくとも、株だ、土地だと眼をギラギラさせる必要はなくなるでしょう。私も人並にパソコンを使っています。本も買うし、コピー機も自宅に置いています。職場が遠いから仕方がないと言い訳はしていますが、皆で共同で使えばいいものを、考えてみればもったいない話です。せめてものに縛られることだけはないように、と自戒していますが。

このごろはパーソナルテレビというのもあるようですが、私は思いだします。かつてまだテレビが一般家庭にまでは普及せず、街角や駅に人々が群がって、力道山の奮戦ぶりに歓声をあげていたことを。人々は１台のテレビを通じて、なんとなくお互いに共感を覚えていたのでした。１台のテレビが人々を結びつけ、たくさんのテレビが人々を引き離すとしたら、これほど皮肉なこともないでしょう。私は「ものより心を」という合言葉を唱えているのではありません。これには、持てるものが持たざるものを差別するための戦略めいたところがあります。秋はむしろ、ものと人間との本来の、あるべき関係を考えてみたいのです。

生協はものの生産と流通に深くかかわっています。しかし、幸いなことに、売らんがために次々と新製品を作り出すのは、生協の精神とはほど遠いもののようです。ともすれば疎外されようとするものと人とのかかわりを考え直すこと、これは生協であってこそ可能なのではないかと思うのです。

（総合人間学部教授）

目　　次
CONTENTS

1 ひととき～ク／ゲスト・高安マリ子さん
5 ICA大会に向けて／ひろがる協同の輪
6 92国際協同組合デー京都集会ひらく
7 一緒に創りました「怒る富士」
8 カメラルポ／国際平和ミュージアムがオープン
10 あなたも地球協同組合人〈7〉
12 製造物責任制度でシンポジウム
13 フィリピンの大学生協関係者のためのセミナー
14 府庁生協の店舗・食堂が改築
15 ブラジル会議レポート
17 気になるこの本／『イタリア協同組合物語』

ひととき～ク

ホスト

京都府生協連会長
木原正雄

ゲスト

ダンス・アーチスト
高安マリ子さん

四条烏丸西入ル北側、大きなオフィスビルの地下に「マリ子ダンスシアター」があります。壁一面の鏡、フローリングの床。「国連・障害者の10年最終年366日マラソンスピーチ」で、ハンドマイクを手に京都駅前で障害者との関わりを語ってくれた高安マリ子さんの、ここは〝仕事場〟。ダンスという表現芸術のこと、教えるということ、障害者との関わり…、話は大いに弾みました。

木原　マラソンスピーチ、どうもありがとうございました。

高安　いえ、それどころか私、頭がポォーッとなって（笑）、ちゃんと自分自身の言いたいことが、うまく言えなかったんじゃないかと…。

木原　授業や講演会とかで話すのとは違いますからね。聴衆がちゃんといて、その反応を見ながら話すとは違って、聞いているかどうか分からない通行人相手に話すのは難しいものです。

高安　ほんと、でも、いい経験をさせていただきました。

■障害者の〝生きる力〟に教えられ…

木原　そもそも、障害者の問題とはどういうことがきっかけで関わられるようになられたんですか？

高安　アメリカにいたときに、障害のある人と友だちになって、一緒にダンスを教えたりしていたことがあるんです。そのときに教えられたんですが、障害をもっている人たちが「生きるんだ」と決意するときは、すっごい決意なんですね。私たちが「よしっ、頑張るゾ！」なんてもんじゃない。毎日の行動範囲を広げるために、すごい決意をしています。その〝力〟ってすばらしいと痛感しました。

日本では４年ほど前から聴言センター（京都市聴覚言語障害センター）でダンスの指導に行くようになって、それから「何か他にもできることが

〝人間の問題〟をダンスを通じて表現したい——高安

あれば」ということで、「ろうあ婦人会」の人にも教えたりしています。聴言センターの場合、１年に一回発表会を開いているんですが、みんなすごいエネルギーで踊ってます。彼らは本当に体でしゃべっているんですね。そして〝体〟の大切さを身に沁みて感じている…。私のような健常者でも、この体をいかにベストコンディションに持っていくか、が勝負なんです。心が沈んでいると体も沈むから、体をハイにすることで、心を高揚させることもできると思うんですね。そうやって精神と体の関係づくりをしていって、生きるための大きなエネルギーを引き出していく——。

だから私、障害者の人たちには「みんなで力を合わせてがんばってよ！　私もがんばるから」って呼びかけているんです。

■知ってほしい「人間の尊重」

木原　日本の障害者をとりまく問題を考えたとき、まだまだ根強い差別意識がありますね。戦前は特に座敷牢とかで家に閉じ込めておくとか、身内の恥と思ったりとか…。今は少しましになりましたが、まだまだ残っています。本当に障害者の立場に立つ、ということには残念ながらなっていません。

高安　アメリカの人たちは「人間」として認めているんですね。そういう意味では本当にデモクラシーを持っていると思います。人間の生命に対する考え方が、日本とは全然違うんだなと思いました。

木原　健康な人であっても、今の時代、いつ障害者になるか分からない時代ですね。交通事故であるとか…。そのことを考えてほしいものですね。決して他人事ではないんだ、ということを。

高安　何か遠くのことだと思っちゃうんですね。でも、この世の中には障害を持った方が、たくさん身近にいるんですよね。その人たちがしっかり生きていくためにも、私たちが変わっていかなければならないと思います。できれば、障害者の人たちの世話をやきすぎて、自立する能力をなくすことなく、同じ人間なんだという立場で、人間の器を広げていってほしいと…。これ、学問とかの

マラソンスピーチでマイクを持つ高安さん

話じゃなくて、「人間の尊重」というシンプルな問題ですよね。「私も生きていて、あなたも生きている」と、お互いの立場を尊重しあうことが大事だと思います。

木原　そのとおりですね。デモクラシーというのは「自分が主人公」なんですが、自分が主人公であるためには「他人も主人公」であることを認めなければなりません。障害者の問題の基本もそこにあると思いますね。

しかしマラソンスピーチでも感じるのは、若い人の反応が悪いことですね。ビラを渡そうとしても受け取ってくれないのは若い人ばかり…。

高安　ねえ…、私、大学生に受け取ってほしいな。大学生こそ社会問題をしっかり考えて、自分を鍛えていってほしいと思うんです。

木原　私は大学で教えてきましたが、大学でも社会問題を考える場がなくなっているんです。遊びのサークルはいっぱいできていますが、天下国家を論じるようなサークルはなくなってきました。とにかく自分一人で生活できるわけはないのですから、もっと社会問題に眼を向けてほしいと思います。

しかし高安さんのような若い人に人気のあるアーチストが社会問題に積極的に関わっておられるということは、私たちにとって非常に心強いものがあります。

高安　特に社会問題ということで意識しているわけではないんです。〝体〟が解放されていないこと、心と体が繋がっていないこと、表現がうまくいかないこと、肉体と愛がうまくいかないこと——たとえば男の人が結婚していてもアジアのセックスツアーに行くとか——、こういうことって私にとっては全部〝問題だ〟と思うことなんです。社会問題というか、〝人間の問題〟ですね。

私は、とにかく人間は自分自身の心、自分が思っていることを表現できるようにならないといけないと思っているんです。心を隠すんじゃなくて…。これ、踊りにとっても、すごく根本的なところを握っている問題で、私はたまたまダンスしかできないから、ダンスが好きな人には、最低限そのことを伝えていきたいと思っています。

■自分自身を知り、表現することの出会い

木原　すばらしいことですね。生活協同組合も高齢者福祉や障害者の問題に取り組んでいるのですが、気がついた誰かが言い、やらなければいけないことなんだ、という気持ちで取り組んでいるわ

たかやす・まりこプロフィール

1957年、京都生まれ。72年、日本人として初めて日本の学校から神戸カナディアン・アカデミーに編入学。73年、単身渡米、アメリカ・ポートランド州立大学心理学科とダンス科を卒業。在学中にダンスのオーディションに合格し、プロデビュー。股関節脱臼で一時はダンサーとしての道を断たれるが、懸命のリハビリが「奇跡」を生む。84年帰国し、心理学を生かしながら「心を演じるダンス」で、障害者のダンスにも取り組み、「心身医療におよぶ試み」と期待されている。現在、マリ子ダンスシアター主宰。ＮＨＫ教育番組「いってみよう・やってみよう」「たのしい教室」振付、日本芸術療法学会会員、京都外国語大学リズム体操講師も務める。

けです。

ところで、髙安さんのダンスにたいする考え方というのは、やはりアメリカ留学中に学ばれたものでしょうか？

髙安　ええ、今年２月に急逝されたのですが、リック・ヤングさんという方が私の先生です。私、最初のうちは足が長くてスラッとしている外国人のなかにあって、背は低いし、短足ですし（笑）、こんなんで踊れるんやろか、という感じでいたんです。そこで先生に言われたのは「あなたはあなたなりにいいものがあるから他の人と比べない方がいい」ということです。東洋人は私一人でしたから「あなたのモデルになる人は誰もいない。その意味であなたは解放されている。もっと自由に自分を生かしていったらどうか」と――。で、「内なる自分を捜して、自分自身の魅力を捜し出す。それが一番あなたの根本になる主体性だから、それをしっかり自分で感じなさい」とおっしゃってくださったんです。

それから「自分の夢があるなら、その夢を持って生き続けなさい」とも言われました。私は、そのころ「お医者さんになりたい」とか「心が分かる人間になりたい」「宇宙や自然とハーモニーがとれるような人間になりたい」とか、いろんな夢があったんですが、そのことをすごく分かってくださって「自分自身の中の表現を見て感じて、それを素直に表現できるようになりなさい。そのことにより舞台に上がったとき、観るものの共感をよぶような表現ができるだろう」と教えていただきました。私にとっては、それがすごいインスピレーションになって、踊ることが楽しくなって病みつきになりました（笑）。

ですから私にとって「踊る」ということは恋人よりも大切なんです（笑）。そういう「表現」を中心にして、自分の人生を通じて何か役に立ちたいなあと、20年近くやってきました。

■教えることの難しさ…

木原　そうでしたか。私も長いこと教師を〝商売〟にしてきましたから、教えることの難しさはよく分かっているつもりです。しかも芸術表現というものは、真似ではなく個性的で創造的なものですから、一人ひとりのオリジナリティを「教える」ことのなかで、引き出さなければならない。やはり、「教える」ときに、教える者は相手を見下ろし、相手は見上げる、という姿勢ではなく、教える側が相手のレベルまで下がって、相手の気持ちをまず理解する努力をしないとだめだと思います。そういう意味で、本当にいい先生に出会われましたね。

髙安　私もいま、ダンスを教える立場にいますので、その難しさに直面しています。私の先生は、私に教えてくれると同時に一緒に仕事をしたり、人生観を話し合ったり、先生自身の悩みを話してくれたりで、「お互いに育っている」という関係でした。それは一対一だと作りやすい関係なんですね。ところが何人も相手をすると、一人ひとりの個性を生かしていくのが、すごく難しいんです。一つのことを語っても、人によって受け止め方は全然違いますから。それに一つのことを押しつけてしまうと、かえってその人の個性が生きてこないし…。

でも五体がちゃんとあるということは、それだけ行動する可能性は広いわけですから、障害者のみなさんに負けないようにがんばりたいと思っています。

木原　デモクラシーの思想にしても、それは「たたかいとった思想」なんですね。日本に本当にデモクラシーが根づいくためには、まず一人ひとりが自分を主張し、相手の主張を認め、そして言ったことは実行し、責任をもつことが大事だと思います。その意味で髙安さんのやっておられることは、本当にすばらしいことだと思います。ますますのご活躍を期待しています。

ひろがる協同の輪――10月27日～ICA大会（東京）

協同組合の国際的な組織であるＩＣＡ（国際協同組合同盟）第30回大会は10月27日から30日まで東京で開催されます。４年ごとに開催されてきたＩＣＡ大会は、第１回のロンドン以来すべてヨーロッパで開催されてきましたが、今回はじめてアジアでひらかれることになりました。

現在ＩＣＡには77ケ国・203の協同組合が加盟しており、その組合員総数は６億７千万人を超えています。国連に登録されているＮＧＯ（非政府組織）としても国際赤十字とならぶ長い歴史をもつ組織です。

ＩＣＡ東京大会には世界各国から1000名を超える協同組合関係者があつまり、21世紀にむかう「協同組合の基本的価値」などを討議し、交流と連帯を深めあう予定です。

また、ＩＣＡ東京大会に先だち、ユース・セミナー（京都・広島・東京で開催）など、あいつぎ関連行事がもたれることになっています。

京都の生協は、農協、漁協、森林組合の方がたとともに「ＩＣＡ東京大会準備京都の会」を結成し、前進座「怒る富士」公演（６月13、14日に京都・祇園甲部歌舞練場、７月５日に舞鶴総合文化会

国際協同組合大会の変遷

回　次	年次	開催地	備　考
第１回大会	1895	ロンドン	創立大会、参加資格と利潤分配問題で粉糾
第２回大会	1896	パリ	
第３回大会	1897	デルフト	
第４回大会	1900	パリ	
第５回大会	1902	マンチェスター	
第６回大会	1904	ブダペスト	国家の補助論争でドイツ、オーストリアが脱退
第７回大会	1907	クレモナ	
第８回大会	1910	ハンブルグ	東京購買組合共同会日本を代表に参加
第９回大会	1913	グラスゴー	平和決議を行い世界に宣言。1914～20、第１次大戦
第10回大会	1921	バーゼル	憲章を改正しロッチデール原則を定型化す、ソ連消費者組合加入資格で激論
第11回大会	1924	ゲント	1923年10月産業組合中央会加盟
第12回大会	1927	ストックホルム	
第13回大会	1930	ウィーン	協同組合原則特別委員会の設置
第14回大会	1934	ロンドン	
第15回大会	1937	パリ	協同組合７原則の定型化　1970年日本産業組合中央会脱退
第16回大会	1946	チューリッヒ	
第17回大会	1948	プラハ	「協同組合と産業国営」を討議
第18回大会	1951	コペンハーゲン	1952年日本生協連、全指連（全中）加盟
第19回大会	1954	パリ	「世界平和に関する決議」採択
第20回大会	1957	ストックホルム	
第21回大会	1960	ローザンヌ	「変容する世界の協同組合」を討議
第22回大会	1963	ボーンマス	ソ連「協同組合運動の基本原則改正」提案
第23回大会	1966	ウィーン	新６原則の採択、とくに協同組合間協同の原則を加える
第24回大会	1969	ハンブルグ	「協同組合の民主的運営」を討議
第25回大会	1972	ワルシャワ	「多国籍企業と国際協同組合運動」討議
第26回大会	1976	パリ	「ＩＣＡの長期活動計画」主要議題
第27回大会	1980	モスクワ	「西暦200年の協同組合」討議
第28回大会	1984	ハンブルグ	「世界的諸問題と協同組合」
第29回大会	1988	ストックホルム	「協同組合の基本的価値」

出典　「協同組合の基本的価値」（伊東勇夫）『協同組合基礎理論研究シリーズ第10集』
農林中金研究センター87.10Ｐ４に一部加筆
〈「ＩＣＡと日本の協同組合運動」（全国農協中央会協同組合図書資料センター）〉

TOKYO 1992 ICA

速く力強い筆運びは努力と熱意を、左右に開いた構図は加盟メンバー6億組合員を有し、その歴史と伝統を誇る国際協同組合同盟を表わしています。デザイン全体では21世紀に向かって環境破壊や貧困と戦い、平和と人間を尊重する社会づくりをめざすICAの創意を象徴します。

館で公演)、92国際協同組合デー京都集会(7月4日、京都府農協会館)を共同でとりくんできましたが、10月31日にはＩＣＡ東京大会ポストコングレスツアーのメンバーの歓迎行事を企画しています。

また、この機会に京都のまちと人びとのくらし、生協の活動を紹介するビデオ「京のふれあい――MY KYOTO & CO-OPS」が企画・製作されました。

ＩＣＡ東京大会を機に育まれた「協同」の輪はさらにひろがっていくことでしょう。(H)

ビデオ「京のふれあい」の紹介役――天竜寺のヘンリー・ミトワさん

新たな協同組合の提携にむけて
92国際協同組合デー京都集会ひらく

7月4日、京都府農協会館において、92国際協同組合デー京都集会が開かれました。この集会は京都の4協同組合連合会の共催で一昨年、昨年と開かれてきており、本年、3回目はＩＣＡ東京大会準備京都の会主催で開かれました。

第1部は、開会あいさつ、各協同組合からの活動報告につづき、京都大学教授・藤谷築次氏が講演。「協同組合――こんな面でも提携を」と題して、農協を中心に各地の協同組合の組織・事業運営の課題にふれながら、それぞれの協同組合のありかたを語り、今後の提携の方向を示唆しました。生協に対しては、「組合員だけを乗せる『ノアの箱船』であってはならない。他団体との協同、社会へ向けての活動をより強めなければならない」と提起されました。

午前中の藤谷築次氏の講演

午後からはNHKアナウンサー古家和雄氏の講演「家族――それぞれの幸せ」

第2部では、ＮＨＫアナウンサー・古家和雄氏から「家族――それぞれの幸せ」と題して次のように話されました。「効率重視のゆがんだ社会のなかで男は仕事、女は家庭という構造がつくられましたが、先に問題に気付いた女性たちが『自分探し』をはじめ、男もようやく家庭での役割分担、社会活動に参加しはじめました。まず、夫と妻の関係を変え、画一的でない価値観をもつことで、ほんとうに豊かな社会が築けるのです。」

のべ300名を越える参加者からは、活発に質問が出され、各協同組合の学習・交流が深まりました。

ＩＣＡ東京大会を契機につくられたＩＣＡ東京大会準備京都の会は、今後も京都の協同組合の連絡・調整の場として名称を変更し、活動を展開する方向が確認されており、京都の協同組合の提携・交流がますます広がることが期待されています。

なお、この日の古家和雄氏の話の内容は、『遅ればせながら男の出番です』(労働旬報社. 680円)にまとめられ出版されています。(S)

一緒に創りました。 前進座特別公演「怒る富士」

明け方の風が少し肌に冷たく感じられる昨年のこの季節に、「怒る富士」を観る会に入りませんかと誘いをうけ、以前から前進座の姿勢を好ましく想っていたことや、お芝居はキャスト、スタッフそして観客で創りあげるものという持論にしたがって、入会することに決めました。おまけに入会すれば「怒る富士」を知る機会も増え、またチケット売りを通して人間関係というものを得る機会にも恵まれるわけです。

さて、1回目の会議で「怒る富士を楽しむ会」という名称が決り、開演当日まで様々な行事を計画し、楽しみながらの取組みとなりました。最初の企画は座のお正月講演。「会」で観にいき、その後交流会が持たれました。

いまむらいずみさんはじめ皆さんから役づくりの苦労話や役者になられるまでのいきさつなど、沢山のことを知ることができました。また、今年の京都での組合員2月集会では、「怒る富士」の主人公を演じる前進座の嵐圭史さんが、東京で長期公演されていた「子午線の祀り」を終えたその足で京都に来ていただき、「怒る富士」の紹介を中心に2時間30分の楽しい講演をお聞きすることができました。

その後、「会」は、学習会や総代会で「怒る富士」の紹介劇を披露するなど公演成功のために奔走しました。

京都生協総代会で「怒る富士」の紹介劇を披露

あれこれ反省することがないとはいえませんが(私はやはり古典物を選びたかったのですが)、芝居を観たのがはじめてという友人が今度も誘ってといい、また誘いを待っていたという方もおられました。

今後も形はどうあれ、たくさんの方たちとご一緒に舞台を創りあげる機会を持ちたいと思っています。 **(京都生協組合員・古澤房子)**

過去を知り、未来を担う国際平和ミュージアムがオープン

平和行進を始め、平和のための京都の戦争展や平和まつりなど、平和の行動を続けてきた私達が待ちに待った戦争博物館が、５月19日、立命館大学にオープンしました。

戦後47年を経過し、人々から戦争の記憶が消えようとしている今日、戦争の真実を伝えその歴史に学びながら、平和への限りない探究をめざす発信地として、大学の平和教育・研究施設のみならず地域社会にも根ざした府民の施設として、全国的にも注目を集めています。

立命館大学では、1987年度の全学協議会（大学及学生・教職員等の代表で構成する協議会）に於て、旧衣笠セミナーハウスの建てかえにあたり、当大学の教学理念である「平和と民主主義」をさらに進める学習施設建設の約束が交されていました。

折しも、1981年より開催されていた「平和のための京都の戦争展」は、より多くの人に戦争の真実と平和の尊さを語り継ぐため、いつでもどこでも参観できる常設の戦争博物館建設に奔走していましたが、立命館大学の戦争博物館建設構想と一致することが解り、さっそく両者間で協定をとり交わし、戦争展実行委員会所有の約2,000点の展示物が提供され、また戦争展で蓄積された経験を生かしながら、大学と協力、協同し、博物館建設にむけての準備がすすめられました。

立命館大学のシンボル「わだつみ像」が参観者を迎えます。

≪展示、保存、建物全てが本格的≫

アカデメイア立命21の地下にある国際平和ミュージアムは、立命館大学の平和のシンボルである『わだつみ像』が参観者を迎えます。この像は、再びペンを銃にかえないことを誓いながら、戦没学生の記念碑として平和と民主主義を見守ってきました。

展示会場には、15年戦争の真実を伝えるコーナーを始め、京都原爆投下計画のシミュレーションや戦時下の国民のくらしを復元した町屋、15世紀から今日までの世界の動きをコンピューター制御の同時５画面で見られるミニシアターも設置され、資料が必要な方にはコピーが出来るなど最新設備が備えられ、そして大人から子供までを対象にした構成は、戦争展実行委員会と大学の協同作業ならではの見ごたえのある内容になっています。

展示に見入る参観者

未来を平和に生きる糧

立命館大学国際平和ミュージアム
館長代理　安斎育郎

「大学の博物館というから、講議室に毛のはえた程度の展示室かと思ったら、予想よりずっと本格的なものでビックリした」という感想を聞きます。広島の原爆資料館よりちょっと大きい程度でしょうか。ここに、十五年戦争の加害と被害の実相、第二次大戦後の戦争責任の追及と戦争を防ぐ仕組みづくり、そして、現代の戦争の惨禍と平和創生への努力を、約六五〇点の物資料と三五〇点の写真資料を中心に展示してあります。ここに来て、戦争を生み出す社会の構造的原因を考え、歴史における私たちひとりひとりの役割をお考えいただければと、切に願っています。ビデオやミニシアターも作って見やすくしました。どうぞ、お気軽においで下さい。

15年戦争の真実を知らせるだけでなく、戦争犯罪を明らかにしつつ戦争責任を追及し、また反戦運動に参加した人々にスポットをあて、現代における戦争と平和を提示することで、参観者へ問題提起をしています。エピローグでは、平和とは戦争がない状態だけでなく環境、飢餓、教育、差別など平和を脅かすすべてについて考えなければならないことを示唆しています。

≪歴史の真実を知らせる窓口として≫

ここを訪れた方の多くは、日本が戦争の被害者でなく加害者であった事実を初めて知り衝撃を受けたと語り平和への願いを新たにされますが、これからの国際平和ミュージアムの果たす役割は、資料の収集、保存、展示に留まらず、研究施設としてまた、歴史の真実を発掘し知らせる窓口としての活躍が期待されます。

そのためにも、沢山の方が国際平和ミュージアムに足を運んでくださることを期待しています。
(M)

戦時下の国民のくらしを復元した町家

ゆっくり感想文をお書き下さい

連載 あなたも地球協同組合人(7)

21世紀の協同組合像を求めて

これまで、さまざまな側面から協同組合というものをみてきましたが、最後に協同組合の文化機能、文化の担い手としての協力組合について考えてみたいと思います。

労働者文化の担い手―ヨーロッパ型生協

20世紀の協同組合の特徴は、生協や農協などがおもに販売や購買といった流通の分野で活躍したことにあります。しかしそれだけではありません。生協はあたらしい労働者文化の担い手でもあったのです。19世紀末から20世紀初頭にかけてヨーロッパの労働運動はかつてない盛り上がりをみせますが、労働者の生活も大きく変わります。労働組合に加入し、選挙では労働者政党に投票し、生協の店で買い物をし、夜は文化団体の講演会に出席したり、演劇を観にいったりという労働者のライフスタイルが定着したのもこの時期でした。生協は労働者世界になくてはならない存在になっていたのです。

聖なる場所

イタリアでは当時の生協の店舗のことを特別な感情をこめて「聖なる場所」と呼んでいます。生協の店舗は50平方メートルたらずの小さなもので、労働者街に組合員数に比例して配置されていました。その数は数十から数百世帯だったといわれています。生協の店舗にはクラブがあり、食堂、遊戯室、読書室などが設けられていて、そこは組合員の娯楽と社交と自己形成の場になっていました。生協の店舗を利用するということは、あきらかにひとつのライフスタイルを選択することでもあったのです。

たしかに利用高配当は魅力でした。読書や討論はあたらしい知識と刺激を与えてくれました。生協の運営に参加することは生活の張り合いでもありました。しかし人々の連帯感にまさるものはなかったのではないでしょうか。

レーニンの遺言

あたらしい文化の担い手としての協同組合に注目したのが晩年のレーニンでした。かれは最期にあたって「協同組合について」という文章をのこしましたが、そのなかで社会主義への移行に成功するのも失敗するのも協同組合しだいだという趣旨のことをくりかえし強調しています。その背景には文化的におくれたロシアの特殊な事情もかいまみられますが、政治制度や経済構造を変革することも大変なら、人間の生活様式や価値観を変えることはこれはこれでまた大変な難事業だったことがうかがわれます。かれはいわゆる文化革命の推進役として協同組合に期待したのです。

民主主義の学校

協同組合はよく民主主義の学校だといわれます。しかしその意味はこれまであまり問題にされてきませんでした。

民主主義の学校という言葉には、もともと、労働者が階級闘争や社会主義の思想を理解し、その担い手として成長するように訓練するという意味がこめられていました。協同組合の教育効果としてたしかにそうした面があったことも事実でしょう。しかしこれにつきるものではありません。市民として成長することを援助するのもそのひとつです。とくに人々が渇望していたとき、協同組合は、芸術、学問、スポーツ、社交等々の機会を提供することに努力してきました。しかし最大の教育効果はやはり経済活動を通じて民主主義と効率を統一するために払われた努力につきるのではないかと思います。

協同組合セクター

協同組合セクターへの関心が高まっています。資本主義でも社会主義でもない第3の道として注目されているようですが、すすむべき道を模索している生協運動の内部事情も反映しているようです。この議論には、これまでとかく軽視されがちだった協同組合の経済的役割について正面から取り上げているという積極的な面があります。しかし、それがどのような生活様式や価値観を前提としているのか、そのためにどのようなプロセスが必要なのかといったことが必ずしもあきらではありません。協同組合について語るときは、やはり、経済的役割と文化的役割をともに問題にすることができるような枠組みが必要だと思います。

大衆消費社会のヨーロッパ型生協の危機

ところで労働者文化にはさまざまな側面がありますが、一面では当時の市民層の生活をモデルとしてそれに近づくことを理想とした文化であったことはたしかです。ヨーロッパの生協運動は消費革命の前夜に登場し、流通近代化を推進することによって、商品経済にますますつよく巻き込まれつつあった労働者の経済的利益に応えようとしました。そして客観的には大衆消費社会を準備する役割をになうことになったのです。しかし大衆消費社会の登場によって労働者文化は衰退します。生協はこうした組合員のニーズの変化に対応できませんでした。これがヨーロッパの生協運動が危機におちいった最大の理由です。そしていま大衆消費社会が環境問題等の爆発によって危機におちいっているのです。

あたらしい協同組合の可能性

21世紀を目前として、協同組合には新しい変化が生れています。まず協同組合の間の境があいまいになってきています。生協には医療生協や福祉生協があります。生協とワーカーズコープや共同作業所等とのジョイントベンチャー（共同事業）も発展しています。こうした動きは新しいタイプの協同組合の芽になるかもしれません。

生協に求めるものも、安全性、利便性、自己実現などさまざまに分化してきています。生協への期待がさまざまに分化すればするほど、生協にアイデンティティーを求める人も増えています。そこでは、連帯感や思いやり、固有の物語りや典型的な人間像が求められています。そのためにあまり大きな組織は好まなくなってきています。

職員の役割も変わりつつあります。社会運動に参加しているという意識が薄れて、サラリーマン化したといわれています。それにともなって、組合員と同じように職員も、自立した個人として、自己実現やアイデンティティーを生協に求めるようになってきています。職員と組合員の関係が将来変化する可能性があります。

あたらしい文化の担い手として

こうした変化は、フェミニズム（男女両性関係の解放）、エコロジー（生態系保護）、ノーマライゼーション（ハンディキャップをもっている人々が普通の生活をおくるための環境整備）、労働の人間化といったライフスタイルの変化にも連動します。この新しい文化のために生協は、制度を変え、意識を変え、社会全体のシステムを変えるような戦略をもつ必要があります。そのためにも経営管理と組織運営を改善するための普段の努力が求められていることはいうまでもありません。（完）

（京都府立大学講師・的場信樹）

製造物責任制度でシンポジウム
●第23回京都消費者大会●

第23回京都消費者大会シンポジウム「消費者のための製造物責任制度を実現しよう」が９月17日（木）午後１時30分から本能寺文化会館で開かれました。パネラーに原早苗消費者科学連合会事務局次長、西村晃ＮＨＫ経済情報番組プロダクションディレクター、浅岡美恵弁護士、松本恒雄一橋大学教授と豪華なメンバーを迎えてのシンポジウムは、現在の欠陥商品による被害の実情や現行法の限界、消費者側が求める製造物責任制度のあり方、現在の企業の考え方、欧米の製造物責任制度などについて総合的に考えるものとなりました。

冒頭、「製造物責任と私たちのくらし」と題して話題を提供した松本氏は欠陥商品によって消費者が被害を受けたときの現在の法律の仕組みを平易に説明するとともに、現行法のどこを変えていく必要があるのかを解明。「製造物責任制度の一番のねらい」が加害者（メーカー）の過失の証明を緩和し「欠陥がある」と主張するだけでいいようにすることにあると指摘しました。

「製造物責任制度はなぜ必要か」を討論テーマとした第一部では、原早苗さんが、電話回線がつながりっぱなしだったという「欠陥商品１１０番」のとりくみを紹介し、欠陥商品にたいして消費者自身がアンテナをはる必要があることを強調。ＮＨＫの番組制作を通じてＰＬ法にたいする企業側取材を続けてきた西村氏は、企業イメージが損なわれることを恐れ、「ＰＬ法について検討している」ことすら広報しない企業の姿勢、一方で欧米に製品を輸出している企業は、懸命にＰＬ法にたいする対応策を考えていることなどを披瀝しました。

また製造物責任訴訟に携わってきた浅岡弁護士は、スモン訴訟でメーカーに過失があることを証明するために、全国500人の弁護団、７万人の被害者による「本当に血と涙の結晶」ともいえる努力が必要だったことを紹介。被害者が迅速に救済されるために製造物責任制度が必要であることを強調しました。

第二部の討論テーマ「もとめられる製造物責任制度とは」では、それぞれの立場から消費者の立場に立った製造物責任制度について言及。原早苗さんは「消費者のための製造物責任制度の制定を求める全国連絡会」が取り組んでいる「消費者のための製造物責任法の早期制定を求める請願書」の請願項目にそって法のあり方を説明。浅岡弁護士は日本弁護士連合会（日弁連）が提案している法案についての基本的考え方を解明しました。

松本氏は製造物責任法ができたとしても日本の裁判所の問題もあって決して楽観できないことを指摘。しかし法制定によって、メーカーを基準にして考えることから消費者の安全性にたいする期待を基準にして考えるように見方を変えることになれば、企業の経済活動の一環として「安全な製品づくり」が位置づけられるようになることを強調しました。最後に西村氏は消費者側が採算を考えてＰＬ法に抵抗している実態を紹介し、消費者にとっても企業にとっても「究極の安全な製品」が目標になるようにしていくことの重要性を指摘しました。

現在、製造物責任法を検討している国民生活審議会では産業界などの根強い抵抗により、立法化に向けての動きが難航しています。シンポジウムでは請願署名を広げ、世論の包囲を強めていくことを確認しました。

フィリピンの大学生協関係者のためのフォローアップセミナーひらく

９月24日～28日の５日間、全国大学生協連は「フィリピンの大学生協関係者のためのフォローアップセミナー」を京都で開催しました。

このセミナーは、1990年３月にフィリピンで行なわれた日本の大学生協の活動を紹介する、「大学生協オリエンテーションセミナー」参加者に対するフォローアップのセミナーとして開催されました。今回来日したメンバーは８名で、90年の「大学生協オリエンテーションセミナー」の参加者及び参加生協からの方々で、90年以降、生協活動改善の実践があった生協からのメンバーとなっています。

今回のフォローアップセミナーのテーマ、及び目的は次のとおりです。

〔テーマ：組合員参加の活動、連帯活動〕

①日本の大学生協の実際、特に組合員参加の活動・連帯活動を理解すること。

②フィリピンからの参加者によるセミナー後のアクションプランづくりを行なうこと。

③フィリピンの大学生協間のネットワークづくりをすすめること。

参加者８名のうち女性が７名で、各生協の理事長、専務理事、マネージャークラスの要職に就かれている方々です。女性が生協の重要なポジションで活躍しており、家族を残して１週間も日本で研修する熱意に頭が下がる思いでした。

フォローアップセミナーに対する参加者の期待は、①日本の大学生協活動や事業の実際を理解すること。②組合員参加――特に学生組合員の生協の参加について学ぶこと、③地域生協の組合員活動と共同購入や“班”の活動について学ぶことです。セミナープログラムでは、大学生協の組合員ばかりでなく地域生協の組合員との討論会、京都生協の共同購入・店舗の見学、大学生協のお店や京都事業連合見学も行ないました。

特に、大学生協関西地連学生委員会や京都生協組合員との討論会は参加者に強い印象を与えたようでした。大学生協の学生組合員の参加については、90％以上の学生が組合員になっていること、各大学生協に学生委員会という組合員のボランティアの組織があり、組合員活動のリーダーになっていること、各クラス毎に総代が選出され学生委員会とともに組合員活動を推進していることなど、日本の大学生協における組合員参加の活動が大変参考になったようでした。また、京都生協では、共同購入の仕組みと“班”の活動について実際に、班の組合員が荷おろしや商品の仕分けを行なったりするところを見学したり、組合員の商品に対する“声”が生協に的確に集約され、メーカーにまで影響を与える力になっていることなどについて関心が集まりました。

フィリピンの大学生協は30位活動しているようですが、横の連帯活動はほとんどありませんし日本の大学生協連のような大学生協の全国連合会もありません。また、日本の大学生協のように、組合員＝出資者＝運営者という“公式”で必ずしも運営されていないようです。それは、法律の体系や経済レベルと無関係ではないようです。ただ、今回セミナーに来日した各大学生協のメンバーを中心にしてフィリピンにおける大学生協間の連帯活動が大きく前進することが期待できます。セミナーのクロージングセッションでフィリピンのメンバーが共同で作成した今後のアクションプランは、私達に大きな期待と勇気を与えるものでした。

アクションプランは自らの生協の発展と連帯活動をすすめ、大学生協の連合会づくりを展望する壮大なものです。具体的な課題は、①大学組合員の拡大と学生委員会の結成、②大学生協の地域連帯組織づくりと全国連合会づくりです。こうした活動を今回日本に来日した８人のメンバー（Phil.-Kyoto Group '92）が中心となりすすめるという計画です。また、遂行期限として、学生組合員の拡大や学生委員会づくりについては92年の10月か

ら早速活動を開始します。連帯活動の分野では、１年かけてセミナー参加生協の主要所在地ごとの地域連帯組織をつくり、95年を展望して各生協間のネットワークを基礎にした大学生協の全国連合会を結成しようというものです。こうしたPhil. - Kyoto Group '92メンバーのフィリピンでのアクションプランの遂行に対して、日本の大学生協連が強力な支援を行なうことが求められています。

現在、タイの大学生協では、連帯組織がつくられ連帯活動が前進しようとしています。インドネシアでは、大学生協を含むユースの連帯組織が活動しています。フィリピンの大学生協でも遅くない時期に大学生協間の連帯組織がつくられるでしょう。そして、アジアの各地域でこうした大学生協間の連帯活動が広がり、環太平洋の大学生協の連帯組織が結成される日も近いことでしょう。約１週間、フィリピンの大学生協メンバーと接し、交流する中で人と人との顔の見える関係づくりがいかに重要なのか実感することが出来ました。少しですが、フィリピンという国が私にとって“近い国”になったようです。

最後に、クロージングセッションでのフィリピンの参加者の言葉を引用して報告の締め括りにしたいと思います。「今、私は大変複雑な心境です。日本の大学生協や地域生協の勝れた実践を直に観ることが出来て大変良かったという気持ちと、日本の勝れた実践との対比で私達の国の生協活動の実態が判り、悲しい気持ちをもちました。帰国してから今回のセミナーで学んだことを生かして、学生の参加と連帯活動の前進のために努力したいと思います。」

（全国大学生協連関西地連事務局長・南波好孝）

店舗、食堂が改築され広くなりました。

●府庁生協創立20周年に完成！

７月18日、組合員の長年の念願であった生協施設の拡大整備が実現し、新築の京都府職員福利厚生棟内に購買店舗と職員食堂及グリルがオープンしました。

この棟は、府職員のくつろぎと健康増進のための施設としてスポーツフロアー、教養室、読書サロン、音楽ルームなどがあり、この１階と地下に府庁生協の店舗が配置されサービス事業部が２号館１階に移転しました。

新食堂にはサンクガーデンがあり、明るく爽快な気分でランチタイムができる220席のスペースは、組合員のコミュニケーションゾーンにもなっています。また京都の生協で初めてプリペイドカードによる代金精算方式を導入し、レジでの混雑がなくなり現金を扱わないため衛生的になり組合員から喜ばれています。

購買店舗は２倍の広さになり、書籍、ＣＤコーナーなどを新設し品数も豊富で通路スペースが広くなって利用しやすくなりました。

明るく広くなった食堂

これからは組合員のコミュニケーションの場として、組合員の声を大切にしながら信頼される生協を目標にかかげています。

また新店舗の披露をかねた創立20周年のつどいが、８月28日、職員食堂で開催され、120名の参加者が新店舗の完成を喜びあいました。（F）

ブラジル会議レポート

環境問題の解決へ日本の責任を痛感

５月30日から６月12日まで、京都生協及び京都府生協連の代表として日本生協連代表団に加わり、ブラジル・リオデジャネイロで、国連環境開発会議と併行してひらかれた'92グローバルフォーラムに参加する機会を得ました。国連の会議は〝今世紀最後の機会〟といわれながら最終的には国家間の利害対立を克服できず、地球と人類の未来の危機感を共有できなかった、といっていいかと思います。けれど対立しながらも妥協・あゆみよりの努力はなされたし、リオ宣言は、〝人類は自然と調和しつつ健康で生産的な生活を送る権利がある〟と冒頭に書きました。これだけの世界の人々の注目の中で、これからの流れが逆行することは許されないだろうという意味で第一歩になったのではないかと思われます。

雀踊りのハッピを着てのみやぎ生協の環境芝居（ジャパンピープルズセンター）

リオへはいって最初に参加したのは「協同組合と地球環境に関するＩＣＡセミナー」でした。日生協代表団が参加者の半数を占め、10月のＩＣＡ東京大会を視野にいれての発言も多くきかれました。その中でイスラエルのアジア・アフリカ研究所のパス氏は、世界の環境・開発・格差の増大という三つの危機に侵蝕されている。とりわけ途上国の状態は悪化しており、貧困と人口問題を解決しない限り環境問題の解決はないと熱っぽく語られ、そこに協同組合が貢献しうる可能性は大きいと強調されました。ブラジルの協同組合の報告からは、貧富の差が激しく教育水準も末だし、国家財政も破綻している状況の中で、協同組合は多様な問題に取り組む唯一の組織であること、新しい技術の導入や人材の育成に積極的な役割を果たしていること等を教えられました。ブラジルでは主要には農業協同組合、都市では労働協同組合で、消費生活協同組合はまだ充分には活動できていません。（農協組合員130万人に対し、生協組合員３万人という数字でした。）食糧の安定的確保が大きな課題のようでした。日本の生協の報告は、組合員による環境チェックやリサイクル活動、事業面における環境にやさしい商品開発や包材・表示などの見直し改善等が、映像を使ってなされました。多くの組合員の参加で行われている点が重要だ、と評価されていました。

５日から８日まで、グローバルフォーラムの会場のさまざまな企画に参加しました。海岸沿いのフラメンゴ公園を主会場に、675の展示ブース、35のテントが立ち並び、全体の参加ＮＧＯは165ヶ国・7500団体。会場には連日３万人が参加したといわれています。ＮＧＯとしての地球憲章や条約を作る会議、関心や力に応じて参加できるさまざまなテーマをもったミーティング、誰でも参加できる集会など、視野の広いもりだくさんの企画で構成されていました。ジャパンピープルズセンターの活動の中では、水俣シンポジウムが注目を浴びました。ブラジルでは今、アマゾン流域の砂金採取に伴う水銀汚染・被害がひろがっており、日本の経験を伝えると同様に、各地での研究者・医師・協同組合等のとりくみのネットワークづくりに役立ちました。また、30年前の水俣の経験がいまだ解決されていない事実によって、日本が決して持続的開発のモデルではないことを示していた点に

力がありました。

８日に開かれたジャパンピープルズデーでは東南アジアやブラジンからの参加者たちから、日本のＯＤＡが現地の環境とくらしを破壊している状況についての告発があいつぎました。日本が主要な役割を果している開発計画のあるものは、あたかもその地域が無人の広野であるかのような、地域に住む人々の配慮を全く欠いたものであるのです。会場で、海外での日系企業による環境破壊の現状調査・企業進出の際の環境アセスメント・補償制度づくりの必要が呼びかけられました。

海岸沿いの高層のホテルヒルトンの背景をなして山々にひろがる巨大なスラム。野菜や果物が豊富に積まれた日曜の朝市。砂糖きびから作られたアルコールで走る自動車（だから日本車はほとんど目にしない）。世界の人々、ブラジルの人々と身動きできないほどの渦になって盆おどりをおどったジャパンナイト、終りに持っていたうちわを隣の人にあげたら頬をあわせて抱きしめてくれた、ノリのいい人たち。

多くの方々のカンパや励ましやねがいに支えられ、刺激の多いみのりある参加ができたと思っています。これからが本番、世界の中の日本のあり方につなげて考えながら身近なところでの実践のつみかさねに確信をもっていきたいと思います。又、これから住民組織としての役割をより果たしていくことが求められると思います。みんなで知恵と力をよせあって息長くがんばっていきたいと思っています。

（京都生活協同組合副理事長・京都府生協連理事
末川千穂子）

▲世界の女性たちのネットワーク。
多彩なことばと熱気があふれていました。

▼帰路のニューヨーク・ロックフェラーセンター[illegible]て。
ブラジルの日程を終えて、少しほっとしています。

●気になるこの本

『イタリア協同組合物語』

J・アール著／川口清史・佐藤誠監訳
リベルタ出版／3,090円

立命館大学教授　松田　博

本書は、イタリアに20年以上滞在するイギリス人ジャーナリストによるイタリア協同組合運動の歴史と現状についての、リアルな、質の高いルポタージュです。著者がイタリア協同組合運動に関心を抱いたのは、なによりもそれが「イタリアの生活のより健全な側面を反映している主題」（「はじめに」）であるからです。

100年以上の歴史をもち、今日西欧諸国のなかで、社会運動としての活力の点でも、経済に占める比重の点からも、注目されている協同組合運動の歴史と現状のルポは、著者にとって、もうひとつのイタリア「発見の旅」であったといえます。Ｊ・アールという優秀なガイドを得て、読者もまた本書を通じて、「もうひとつのイタリア」への旅に出かけることができます。

まず、歴史的概見の章では、前世紀中盤から、第一次大戦の高揚をへて、ファシズム下での苦難の時期、戦後の再建期までが簡潔に紹介されています。協同組合精神が時代の荒波のなかで途切れることなく脈々と流れつづけてきたことが印象的です。

つぎに、イタリア協同組合運動の三つの潮流が紹介されています。最大の潮流の革新系のレガ、カトリック系の同盟、共和党系の連合、それぞれの特徴がうきぼりにされています。政党、労働組合、社会運動いずれをとっても、イタリアを理解するカギは「複数主義」（プルラリズム）といわれますが、それは協同組合運動にとっても例外ではありません。「複数主義」（多様性、多元性）がネガティブなものとしてではなく、「多様性をふまえた統一」への積極的要因となりうるか否か？。三潮流の活発化しつつある統一への歩みが期待されます。

さらに、ボローニアにはじまる11の地方の協同組合運動の紹介は、著者が直接「足で書いた」ルポであり、魅力的な部分です。著者の目は、協同組合の先進地であるボローニアやトスカーナなどのイタリア中、北部ばかりでなく、遅れた地域である、南部のシチリアやサルデーニアにも注がれています。イタリア社会にとっての歴史的課題である「南北問題」は、協同組合運動にとってもまた避けて通ることのできない課題であることが示されています。

本書は、イタリア協同組合運動の積極的側面のみを紹介する賛美の書ではありません。世界史の激動と転換の時代にあって、協同組合の基本的意義とその可能性とは何かを考えさせてくれる問題提起の書といえるでしょう。多くの人に読んでほしい好著です。

京都のまちと人びとのくらし、そして生協を紹介するビデオができました

「京のふれあい MY KYOTO & CO-OPS」

日本語版と英語版の2種類
があります。
生協内外でご利用下さい。
頒価 **2,000円**（22分）

お問いあわせは ☎251-1551

「天の橋立」の浜そうじのシーン

ベト君ドク君の主治医が語る！

枯葉剤の傷跡
いまも続く命の危機

11月18日（水）
午後6時開場

コープ・イン・京都
中京区柳馬場蛸薬師上ル

参加費500円

講師 グエン・ティ・ゴク・フォン博士（ツーズー産科病院院長）

主催 ベトちゃんとドクちゃんの発達を願う会 ほか
（連絡先 ☎251-1551）

パンフレット

せんたく（洗濯）のせんたく（選択）

環境問題が大きくクローズアップされている昨今。　にもかかわらず粉石けんの普及率が下ってきています。石けんや合成洗剤についての学習、宣伝の資料に最適。洗濯がもっと上手にできます。

発行／京都生活協同組合
監修／藤原邦達

お問いあわせは ☎681-2190　〈100円〉